

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立天の原小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0884

福岡県大牟田市笹原町 3 丁目 1 1 6 番地

E-mail amanohara-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website

幼児児童生徒数 男子名 女子名 合計 241 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、緑豊かな高台にあり自然環境に恵まれ、学校教育に協力的な地域の方々との深いつながりに恵まれた学校である。そこで ESD を、学校の教育活動全体を通じて行うことで、豊かな人間性や社会性を育み、自然環境や地域を大切にする子どもたちを育てている。

具体的には、海洋教育、福祉教育を柱に、持続可能な環境づくりや人間関係づくりにつながる学習を展開している。

① 地域の川と海とのつながりから、持続可能な環境づくりに参画する学習

校区にある「野間川」を入り口に、総合的な学習の時間を中心に「海洋教育」を教育課程に位置づけた学習を行った。3 年生から 6 年生の総合的な学習の時間における 4 年間で、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の 4 つのキーワードを系統的・段階的に設定し、有明海の生物や自然環境を守るために、自分たちでできることを考え、実践し、地域に広げていく学習を行った。

市内外のユネスコスクールや海洋教育推進モデル校と互いの学びを交流したり、調べたことをリーフレットや新聞などに表現して、地域に広めたりして「海を通したE S D」を実践した。



①の写真（3年干潟観察）



①の写真（4年三池港見学）



①の写真（5年野間川観察）



①の写真（6年海洋フォーラム）

② 特別支援学校の友だちや地域のお年寄りとの関わりから、誰もが住みよい地域をつくっていく実践的態度につながる学習

地域にある大牟田特別支援学校との継続的で発展的な交流や、地域のお年寄りとの交流を教育課程に位置付け、関わりを通してそれぞれの交流相手のよさや、よりよい社会をつくっていくために自分たちにできることを考え実践していく学習を展開した。1, 2年生は生活科を中心に校区内の施設について調べたり地域のお年寄りから昔のことを学んだりして、地域やお年寄りの知恵や経験のすばらしさを感じさせる。3年生から6年生は総合的な学習の時間や学級活動で、支援学校の友だちとの交流をしたり、地域の高齢者と共に活動をしたりして、お互いに助け合い協力し合い、さらに住みよい地域や社会をつくり、共に生きていく実践的態度の育成を図っている。



②の写真（4年特別支援学校との交流会）



②の写真（5福祉の集い発表）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

| | | | |
|--|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(海洋教育) | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

佐賀県庁HP、柳川市HP、マリンワールドHP、尾市「干潟の生物」海まるごと大研究 1～5、さがして海ハカセ 1～3、干潟生物観察図鑑 有明海、海辺の生き物図鑑、日本列島、水をとったら？ 1～3、海のひみ、きせきの海をうめたてないで！みんなの環境 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習を核として、教科横断的に活動に関連させたり、単元を入れ替えたりして海洋教育と福祉教育を行っている。また、海洋教育や福祉教育を学年の発達段階や学びの深まりから段階的に位置づけている。海洋教育は3年生から6年生まで系統的に、身近なところから世界までその視点を広げたり深めたりできるような教育課程を編成している。その活動計画を、ESDカレンダーやストーリーマップにまとめ、どの教科のどの単元とつながっているのか、教師が意識しながら学習を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD・ユネスコスクール・海洋教育・福祉教育それぞれに担当者や責任者を決め、年間の指導計画に基づいて、全体や該当学年に提案し、活動している。海洋教育については、他の海洋教育推進モデル校と共同して研究が進められるよう、ワーキンググループをつくり話合いのもと活動をしている。また、福祉教育に関しては、地域の社会福祉協議会や特別支援学校と連携して交流計画を立て、毎年継続的に交流している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESDを総合的な学習を核に、海洋教育や福祉教育の授業を通して実践・評価をしている。講師招聘の授業研究会において、その成果と課題を協議している。海洋教育においては、海洋教育推進校3校交流会、TV会議、こども海洋フォーラム、ユネスコスクール全国大会等での児童・職員の実践発表・パネルディスカッション等を通して、外部講師を招き、その活動の評価を受けて活動のよさや課題を見いだしている。さらに、学校評価委員に授業や発表を公開し、地域からの生の評価の声をいただいている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

市内外の海洋教育推進校と交流会・TV 会議・子どもフォーラム・ユネスコスクール子どもサミット・全国海洋教育サミットに参加した。その中で、校内の他学年への発表やプレゼンにまとめて発信したり、調べて分かったことをポスター形式にまとめてポスターセッションで発表したりした。また、市の環境企画課とコラボレーションして、自分たちにできそうなことをリーフレットにまとめて地域の店や公民館、家庭に配布した。

子どもたちの発信力が高まるとともに、「子どもたちがこんなに頑張っているのなら」と、地域の方々の環境を守る意欲が高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

ネイチャーガイド・オオムタや市の環境企画課の方には、子どもたちの観察や調査活動に協力してもらった。また笹川平和財団海洋政策研究所、東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター、豊かな海づくり大会推進委員会、大牟田市港振興室、大牟田市教育委員会には、情報を提供していただいたり子どもたちの発信の場を提供していただいたりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

市内の海洋教育推進モデル校である天領小学校、みなと小学校と３校でワーキンググループを組織し、情報交換や共同研究、交流し協力しながら海洋教育を推進している。３校合同で干潟の観察や三池港クルージング、合同交流会やTV 会議、海洋教育サミット参加などの活動を計画し実施している。また、同じく海洋教育推進校である佐賀県玄海みらい学園、鹿児島県南さつま市立坊津学園とは、海洋教育こどもフォーラムで交流し、子どものみならず教員の交流も行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

海洋教育や福祉教育を行うことで、子どもたちが自分たちの環境を自分たちで守る意識をもったり、地域の障害をもつ友だちやお年寄りと共に生活していく意欲をもったりできた。これらの学習を総合的な学習を中心にカリキュラムマネジメントを行い、指導を行いながら付加・修正を加え他の教科・領域との関連を少しずつ明確にしていってことで、教員の意識が横断的になり指導の成果が上がった。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本校の特色を活かした森・川・海をつなぐデルタ型海洋教育の推進を図るため、横断的な学習指導と交流学習を通し、海洋教育の指導の充実を図りカリキュラムマネジメントの構築を推進する。また、これまで行ってきた交流のみならず、共によりよい生活を築いていくための特別支援学級の友だちやお年寄りとの協力の在り方を探り、福祉教育の充実を図る。